

+αの自作デジタル教材で音読をさせる取り組み

北陸学院高等学校教諭 平田 純

2年前、電子黒板が全教室に配備されている現在の学校に赴任し、初めてデジタル教科書に出会いました。ウワサには聞いていましたが、初めて操作したときの感動は今でも忘れません。感動と同時に、ネガティブな感情も湧きました。

『今までの自分は何だったのか。これさえあれば、教員なんていらぬのではないか』

しばらくは自己否定の日々を送るほどの衝撃でした。

しかし、生徒の順応力は素晴らしいものです。すぐにデジタル教科書にも慣れ、数か月もたずにマンネリ化の波が押し寄せてきました。

『このままではまずい。キラキラになるはずの生徒の目がくすんでいる・・・』

赴任初年度のプレッシャーもあり、当然危機感を覚えました。デジタル教科書でとことん突き進むのか、何か自分の手を加えるのか・・・。葛藤の日々は続きました。今でもそうですが、出口の見えないトンネルのような、何をするのが正解かもわからない不安の中にいました。言うなれば、受験生が抱える不安と同じような不安を教員も抱えてしまっているという、非常にまずい状況でした。

そんな時、山形県立上山明新館高等学校の山口和彦先生のご講演を聴く機会に恵まれました。山口先生は多くの具体策をお持ちでしたが、中でも最も感銘を受けたのがオリジナルのデジタル教材を使った音読のさせ方でした。画面上に英文が流れ、それが消える前に生徒は音読をしなければならないというものです。

これは自分の授業でも使えるかもしれない、そう直感しました。なぜなら研修会であることを忘れて、私自身が必死になって音読に取り組んでいたからです。実際に画面に投影された文字が動き、消えていくということで、しっかりと目で追うことになり、またいい意味で急かされることとなります。

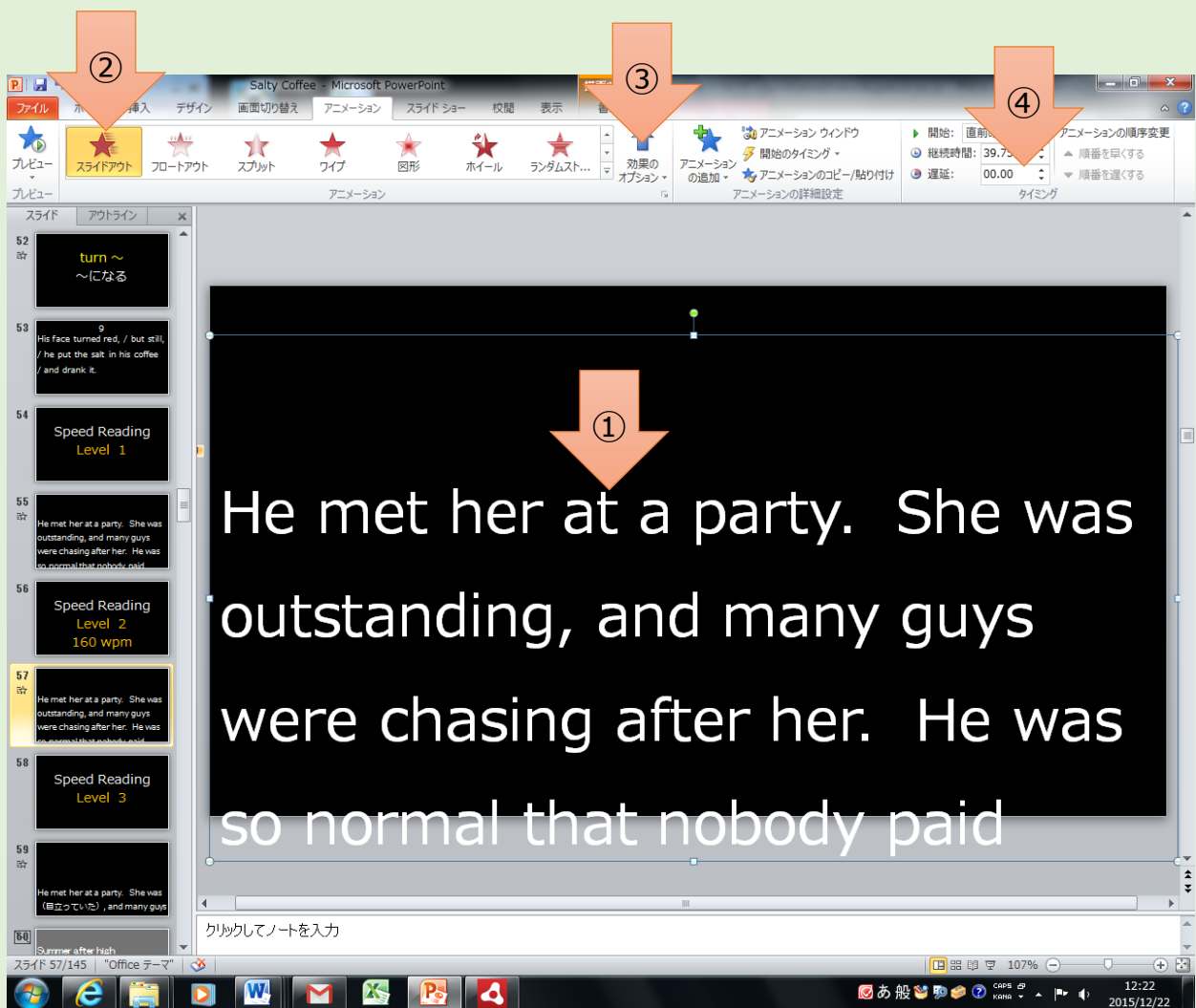
黒板とチョークの授業を否定するつもりはまったくありませんが、それだけでは実現しにくい授業もあると思います。まさに山口先生の授業がそうでした。その日から、電子黒板が導入されているメリットを最大限に生かした授業を、今まで以上に意識するようになりました。

現在はデジタル教科書の利用と平行して、パワーポイントでも上記で述べたような教科書本文の動画を作成し、授業で活用しています。もともと音読にはこだわって授業をしていたつもりでしたが、この取り組みを初めて以降、生徒は今までにないくらい声を出し始めました。

やはり英語は言葉ですので、音読は避けて通れないと考えています。そこで次に考えたことは、『家庭でも音読をしてほしい』ということです。実際に、家庭での音読はなかなかやりにくいものだと思います。自分自身もそうでしたので。

家庭での音読実現のために、北陸学院高等学校英語科では、全学年のコミュニケーション英語の本文をパワーポイントで動画化し、動画共有サイトにアップすることにしました。もちろん著作権の問題に関しては出版元にも了承をとりました。生徒に配布する授業プリントに該当レッスンの動画にアクセスできるQRコードを載せることで、生徒はスマートフォンやパソコンで『いつでもどこでも』音読にチャレンジすることができますというわけです。

僭越ながら、実際に使っているパワーポイント動画の作成方法を以下に示させていただきます。



- ① 文章をパワーポイントに貼り付けます。
- ② 『アニメーション』から『スライドアウト』を選択します。
- ③ 『効果のオプション』で上向きの矢印を選びます。
- ④ 最後に時間を設定します。

この方法で、もしここに音声を入れるのなら、『挿入』から『オーディオ』を選ぶと入れることができます。

ちなみに私が作成するスライドは、字の大きさが44ポイント、行間は1.5行を目安としています。

また、個人的には背景は黒くするのが好きです。目にもやさしく、スクリーン等がなくても、黒板に直接投影できるメリットもあるからです。これは、『デザイン』から『背景のスタイル』で黒いものを選ぶだけでできます。

『電子黒板なんてない』という先生方もいらっしゃるかと思いますが、これはプロジェクターさえあれば可能です。

今のこの取り組みが正解なのかどうかはわかりませんが、少なくとも多くの生徒たちが動画にアクセスし、学校でも家庭でも音読に取り組んでいることは事実です。初めばかりなので、その成果はまだはっきりと数字に表れているわけではありませんが、今はこの方法を続けたいと思っています。

さて、生徒たちが音読に励んでいる間に、こちらは次のマンネリ化に備えて新しいネタでも考えたいと思います・・・！